

Poland <ポーランド>

KATARZYNA HALL、国民教育相：過去数年間に、高等学校を卒業して、さらに高等教育に進学することに関心のある若者の数が大幅に増えていることに、私たちは注目しています。若いポーランド人の教育への向上心は、確実に上昇傾向にあります。

TITLE: “Strong Performers and Successful Reformers in Education: Poland”

MIROSLAW HANDKE、元国民教育相(1997年～2000年)：旧制度が確立されたのは1950年代で、共産党の教育システムでした。共産主義が崩壊したとき、ポーランドの教育システムに関連する民主政治の緊急の課題は、ポーランドの学校カリキュラムからほとんどのイデオロギーに関する内容を排除することでした。しかし、教育構造は、1950年代始めの極端なスターリン主義の頃にポーランドに導入されたときのものと、全く変わっていませんでした。当時のことに非常に詳しいのは、私自身、教育を受け始めたときだったからです。

SLAWOMIR BRONIARZ、ポーランド教職員組合長：つまり、1999年に始められた変革は、教育システムの近代化を意図していました。同時に、教育構造を変えて、この国の若者たちのニーズと志望にもっと適切に対応し、高等教育への準備を十分にすることです。忘れてならないのは、当時、大学に通うポーランド人の若者の割合は低く、大学入学を目指す若いポーランド人の数もごくわずかだったことです。これは、大半が教育を高等学校段階で終えることを意味していました。

テキストスライド：PISA2000年調査。ポーランドの読解力における平均得点、479点。2009年調査。ポーランドの読解力における平均得点、500点。9年間で21ポイントの上昇…

MIROSLAW HANDKE：ポーランドでは、共産党時代に、大学の学位をもつポーランド人成人はわずか10%でした。これは世界の最も低いレベルの数字だったので、私たちの最初の目標はこの数字を上げることでした。しかし、この目標を達成するには、教育システム全体を変える必要がありました。

ZBIGNIEW MARCINIAK、科学・高等教育省国務次官：こうした明らかな問題に対処するために改革が必要であることは明白でした。この国の8年間の前期中等教育は不十分でした。この8年間で、現代世界の情報をすべて詰め込もうとしたのです。これは大半の生徒にとって、あまりにも無謀な課業でした。結果として、若いポーランド人の大半が、小・中学校の8年目を修了すると、学業はあっさりあきらめ、高等学校やそれ以降の高等教育

へ進学しようとはしませんでした。それは 8 年生症候群と呼ばれました。

MIROSLAW HANDKE : ポーランドの教育改革の目標は、中学校をもう 1 年延長するだけでなく、子ども一人一人の個性的な才能に合わせてもっと柔軟性を高めることにより、教育をもっと魅力的にすることでした。それによって教育システムは興味と才能があればだれでもアクセスできるものとなり、各人の志望と個人的能力に従って、可能な限り教育を続けられるようになったのです。

テキストスライド : ポーランドの教育改革目標

- ・ 教育の質を向上させる
- ・ すべての子どもに平等な教育の機会を確保する
- ・ 前期中等教育から高等学校及び高等教育への進学を増やす

テキストスライド : 1999 年のポーランドの教育改革

- ・ すべての生徒について、前期中等教育を 1 年間延長した
- ・ 全国標準試験を導入した
- ・ 学校の自立性を強化した

テキストスライド : こうした改革は

- ・ ポーランドの子どもたちにとって不可欠な技能を学ぶ時間を増やし、さらなる教育への道を開いた
- ・ すべての生徒が達成すべき明確な基準と目標を示した
- ・ 教師を激励して、授業内容を近代化させ、革新的な教授法を導入させた

テキストスライド : Warsaw-Wawer 第 103 中学校の経験…

教師 : 「レオナルド・ダ・ビンチが描いた人体図は宇宙にも送られました。もしも誰かが見つけたときの人類の名刺代わりです。外宇宙に他の文明があれば、そしてレオナルド・ダ・ビンチの『ウイトルウィウイス的人体図』を発見したとしたら、人類がどんな姿をしているのか、彼らに分るでしょう。人体を描くのはむずかしいのですが、今日はこれからそれに挑戦します。」

ELZBIETA DALECKA, Warsaw-Wawer 第 103 中学校副校長兼数学教師 : ポーランドでは学校制度の改革によって、以前よりも 1 年間長く学校にすることになり、これによって中学生はもっと大人になりました。これは生徒たちの決断にも影響を及ぼします。今、子どもたちは科目の全範囲を勉強しますから、特別な才能を発見したり、個人的に関心のあ

る特定科目を深めたり、高等学校で情熱を追求したりする機会が増えます。あまり得意でない科目については、中学校で余裕ができたので、成績の制約にじっくり対処できます。

JOANNA BEROWSKA、Warsaw-Wawer 第 103 中学校化学教師：今では、中学校の生徒が何に一番関心を持っているのか知るため、選択に注意を払うようになっています。生徒には様々な科目に挑戦することを勧めています。それで一番関心があるのは何か探し、選択できるからです。喜びを感じ、最も自然に感じられる科目、最も充実感のある科目です。

JOANNA BEROWSKA：「さあ、それでは、先ずこのグラスに水を注ぎます。あともう少しかな。これはただの水、純粋な水です。」

生徒、Warsaw-Wawer 第 103 中学校：中学校が 1 年延びたことで、高等学校へ進学する前に知識を向上させる機会が与えられます。

STANISLAW DRZAZDZEWSKI、国民教育省、総務顧問：この国の改革がこれほど急速に、効率的に実施された理由は、これまではなかったような形で若者に可能性を発見する良い機会を与えたからです。これは職業教育と普通教育との間の厳しい区別を和らげることに役立ち、それによって、さらに教育を続ける道が開かれました。改革の目標は生徒の学習を向上させ、高等教育への進学を 80%にまで増加させることでしたが、私たちはそれを達成しました。

テキストスライド：ポーランドの全国標準試験

- ・ 生徒の進歩を測る統一基準を示す
- ・ 教師の主観を抑える
- ・ 制度全体の長所と短所をモニターする能力を強化する

KATARZYNA HALL：結果を向上させた最も重要な要因の一つは、一般試験制度だったと思います。今では、小学校を終える時点ですべての生徒に実施される一般試験があり、中学校の終了時にまた一般試験がありますので、教師は全員が生徒たちをこうした試験に向けて準備させなければならないことを十分に承知しています。結果は公表されるのです。そこで教師たちは、それぞれの生徒たちに然るべく準備させるために努力します。試験の評価は、合格か不合格かに分けられるわけではありません。これは、試験の得点によって生徒が制度からはじきだされないことを意味します。生徒は、得点がどうであれ、それぞれの学業の道で進歩しなければなりません。ですから、一般試験における成績で将来が制限されるべきではないのです。但し、中学校の卒業試験は、高等学校への推薦で一つの要素となります。

ELZBIETA DALECKA : 「さあ、分りましたか？」

生徒 : 「はい、分りました。すこし乱雑に見えるかもしれないけど、正解が分りました。」

ELZBIETA DALECKA : 「間違えたのはどこですか？」

生徒 : 「ここです。」

ELZBIETA DALECKA : 「理由は分りますか？」

生徒 : 「ええ、“k” を掛けなかったからです。」

ELZBIETA DALECKA : 「これで分りましたね？」

生徒 : 中学校の卒業試験がとても大切なのは、点数が低いと、高等学校を選ぶときの期待を低くしなければならなくなるからです。でも、高等学校レベルで職業教育と普通教育のどちらに進みたいか、まだはっきり決まっていません。色々なことに興味があつて、選択肢がたくさんあります。まだ決めていませんが、試験の結果が決心に役立つはずです。

テキストスライド : ポーランドの学校の裁量が拡大し

- ・ 各学校がカリキュラムをカスタマイズする範囲が広がる
- ・ 教師に、内容を近代化し、教科書を選ぶ裁量が与えられる
- ・ 教師が革新的な教育方法を適用できる環境が生み出される

SLAWOMIR BRONIARZ : 改革前には、ポーランドの 15 歳の教育は、ほとんど、事実を百科事典のように覚えることだけに集中していました。15 歳の子どもには一定量の知識を覚える義務がありました。その知識に基づいて評価されましたが、同時に、その知識はどちらかという役に立たないものでした。現実の世界でそうした知識に実用的な用途はありませんでした。

ELZBIETA DALECKA : 「さあ、みなさんにはこの課題が与えられます。どのように行うか、その決定はすべてみなさんに任せます。一緒に取り組みますか？課題を分割して、特定のパートナーに割り当てますか？課題にはやさしいものもあり、難しいものもあります。課題を終えたら、手を挙げてください。それであなたのグループが 1 点獲得します。」

ELZBIETA DALECKA : 改革以来、指導方法も変わりました。現在、教師たちは多くの現職研修プログラムに参加していますが、そこでは積極的な指導方法が強調されています。教師が黒板の前に立って授業するモデルからは卒業しました。私たちは生徒を授業に引き込むように努めています。また、問題解決の方法を使うことにも努めています。これは簡単ではありません。例えば、暗記したアルゴリズムや方程式を使って問題を解くのが数学ではないことを、生徒に示そうとしています。問題を発見し、自分のやり方でそれを解き、そして、多分、これが一番の難題ですが、その練習から自分なりの結論を引き出すことを生徒に教えようとしています。中学校で改革を実施して以来、成績の良い生徒とよくない生徒との差が縮むのを見てきました。これは、中学校教育を実施する私たちの新しいやり方で、あまり成績のよくなかった生徒の成績が上がったことを物語っています。

MIROSLAW HANDKE : ときどき、何かを長い間続けていると型通りの行動になることがあります。これは必ずしもよいことではありません。改革がよいことだったのは、ある意味で、古い制度を停滞から放り出したからだと思います。

ZBIGNIEW MARCINIAK : 今日、ポーランドでは、高等教育は特権階級だけのものではなく、高等教育を望むすべての人のためにあるという考えが広まっています。これによって大学入学は5倍に増加する結果となりました。1990年代の終わり頃に、ポーランドには約40万人の大学生がいましたが、これは資格のある若者の約10%でした。現在は、ほぼ200万人の大学生がいます。つまり、大学に入学する資格のある、この年齢層の若者の2人に1人は実際に大学に入学しているのです。これは大きな成功です。他の多くの国々が同じ問題に奮闘しています。高等教育への参加を増やすためにどうやって奨励するか、ということです。ポーランドでは、成績を上げることができると気づく機会をすべての若者に与えることで、これに対処してきました。その先は行き止まりしかない、質の悪い教育には、もう運命づけられていないのです。必要な努力を惜しまない者には、すべての扉が開きます。今では、ポーランドで中学校を修了すれば、明るい未来へ向け、もっと多くの可能性が開けます。多くの若者がこのチャンスをつかんでいます。